

建設工事従業者の人員不足に関する研究

日大生産工(学部) ○伊大知 瑞希 山本 壽夫

1 まえがき

現在、大工の人口は年々減っていく傾向にあり、人が生活するうえで建物などは切っても切り離せないものになっている。他の職業と同じように人に評価され尊敬されて良い職業のはずですが、現状ではそれとはまったく別の印象を持たれている。それは、3K（きつい、汚い、危険）である。そういったイメージに関する影響などから大工の人口は減少し、歴史的な文化遺産の維持、マンションや戸建ての新規受注など、リフォームに必要な人材を確保することができず、仕事を外注することなどが起こっている。

以上より企業に対する顧客の信頼低下が発生している。これらの原因を少なくすることを目的に、本研究では、問題点を解決するために大工の悪しき印象の払拭および大工専門学校を設立することで大工が一般的に職が就きやすい安全な仕事であることを証明し、事業として成立する研究をおこなう。なお、本研究における仮説の検証は、ケーススタディ方式にておこなう。

2 先行研究

先行研究として次の項目に関する研究を前提とする。通常教育だけでなく専門科目の教育がどれほど大切であるか

- ① 「校の新たな道：「職業実践専門課程」の認定を受けた学校に関する研究」津田敏、2014）⁽¹⁾
- ② 子供の将来に対しての親の影響
「学生における親の就職への態度および親との関係と職業意識との関連」鹿内啓子、2010）⁽²⁾
- ③ 職人としての新たな道
「造住宅生産の機械化と大工技能の変容」

（豊嶋太郎、東樋口 護、橋本 清勇 1994）⁽³⁾

3 現状分析

現状分析として、建築史より日本技術の発展及び、現在に至るまでの技能労働者の人口推移、小学生が将来就きたい職業、若手が離職する原因を見てみる。

3.1 建築に関する主要な歴史

建築様式など主要な歴史を調査し次の分析内容を表すことが出来る。

表1 建築史

時代	特徴
縄文時代	平地住居が多く、床を持つ住居が普及
飛鳥・奈良時代	朝鮮半島や中国から建築技術を取り入れた
平安時代	柱を細く、天井を低めにした穏やかな空間が好まれるようになっていった。平安時代以降には日本独自の形態として発展し、この建築様式を和様と呼ぶ
江戸時代	全般に庶民文化の栄えた時代であり、世俗化の傾向が顕著に見られる。茶室を住宅に取り入れた数寄屋造りや、都市の娯楽施設である劇場建築・遊廓の建築が増えていった
明治時代	近代化に必要な都市を築くため、西洋建築の技術を得ようと躍起になる。近代化のために西洋から学ぶべき技術として捉えられ、芸術・美術と捉える意識は薄くなった。関東大震災で

A study on Understaffing of Workmen Employed by the
Construction Company
Mizuki IOCHI, Hisao YAMAMOTO

	煉瓦造建築に大きな被害が生じたことから、日本独自の耐震構造技術への関心が高まった。こうして、建築はもっぱら工学的な学問と考えられる風潮が強まった
戦後以降	鉄筋コンクリートの使用が一般的になり、各地にモダニズムの公共施設が建設された。地震の多いことが日本の課題の一つであったが、耐震構造技術が進み、かつては百尺（31m）に制限されていた規制も緩和され、超高層建築が建てられるようになった伝統的な街並みや過去の優れた建造物の多くが戦災や経済発展の中で失われ、経済性・合理性優先の安上がりな建築が多くなり、スクラップアンドビルドが繰り返された

出典）日本近代建築史参照

上記の表1より日本の建築は様々な文化を取り入れながら変化していることがわかる。多くのことに柔軟に対応し、日本の風土にあった形に変化させ、今までに取り入れた知識や災害に対する恐怖から今の耐震や免振などの技術の発展に繋がっている。

3.2 建築技能者数の推移

表2 技能労働者の人口推移

単位：万人

年度	人口数	増減数
H. 3	399	0
H. 5	420	△21
H. 7	438	△18
H. 9	455	△17
H. 11	434	▲21
H. 13	415	▲19
H. 15	401	▲14
H. 17	381	▲20
H. 19	370	▲11
H. 21	342	▲28
H. 22	332	▲10

（出典）国土交通省 「築技能者を取り巻く環境」 参考に作成

上記表1より、
次の内容が表すことができる。

- ① H. 3からH. 9までは増加傾向にあったが、H. 9からH. 22に至るまで減少傾向にある。
- ② 現在は大工に対し悪いイメージがあるが、H. 9までは増加傾向にあったことから大工の人口を増加させることは可能であると考ええる。
- ③ 2年ごとに見ても最低でも10万人単位での減少がみられる

3.2 新小学生及び親の職業観

2000人の小学生の男の子と親御さんに将来就きたい職業としてほしい職業を調査したものを表2、表3にまとめた。

表3 小学生の男の子が就きたい職業
2000人の男の子のうちの%表記

順位	就き職業	2011	2010	2009
1	スポーツ選手	29.8	30.1	28.6
2	警察官	6.3	6.0	5.3
3	運転手	6.0	5.6	5.1
4	消防士	5.9	5.1	4.9
5	料理人	4.6	2.7	2.6
6	お菓子職人	4.6	3.9	3.8
7	職人	3.8	4.8	5.7
8	学者	3.7	3.6	2.3
9	芸能人	3.5	2.5	2.7
10	アニメ関係	3.4	3.2	2.5

出典）クラレ「将来就きたい職業・就いて欲しい職業」2011

表4 親御さんがつかせたい職業
2000人の男の子の親御さんを%表記

順位	就かせたい職業	2011	2010	2009
1	公務員	19.8	19.0	15.8
2	スポーツ選手	13.6	15.0	16.0
3	医師	11.1	10.5	8.0
4	会社員	5.5	6.8	7.5
5	エンジニア	5.2	1.7	2.0
6	消防士	5.2	3.6	3.2
7	パイロット	3.3	3.0	3.7
8	教員	3.0	2.7	2.6
9	建築家	2.8	2.3	1.5
10	薬剤師	2.8	1.9	1.6

出典）クラレ「就きたい職業・就いて欲しい職業」2011

表2.3より子供と親御さんの気持ちにはかなり差があることがわかります。子供は純粋に憧れの職を書いているが親御さんは安全面や収入面なども考えて意見していると考えられる。

さらに職人関してみると職人は年代によっては上位のお菓子職人などを抜かしてことが分かるこのことなどもあり人気であることがわかる。職人は表2のデータより毎年トップ10に入っていることもわかる。

3.3 離職する原因

離職する原因として9つ調べられている。①収入の低さ②仕事のきつさ③作業環境の厳しさ④休日の少なさ⑤社会保障等福利の未整備⑥仕事量減少への不安⑦若手減少による意識低下⑧職業イメージ⑨仕事内容の単調さなどが調査によって調べられている。

3.4 理想の仕事

平成11年から平成21年度までの理想的な仕事の条件として7つのことがある。①収入が安定している②自分にとって楽しい仕事③自分の専門知識や努力が生かせる仕事④健康を損なう心配がない⑤世の中のためになる⑥失業の心配がない⑦高い収入が得られるなどがあげられている。

4 問題点

上記3を前提に、建設工従業者の問題点は以下の点が挙げられえ。

- ① 仕事に対する収入の低さと安定した収入が確保されていない。仕事量も確保されていない
- ② 仕事のきつさ、休日の少なさ、作業環境悪さ
- ③ 若手減少による意識低下
- ④ 職業イメージ

上記の4つが問題点であると考えられます。上記問題点に関する考察として次の内容を表すことができる。

- (1)大工自体のスキルアップを図り会社においての重要度を上げて給料を上げさせる。
- (2)スキルを上げることにより作業効率を上げていき仕事のきつさ及び休日の確保につなげる。
- (3)大工に対するイメージを回復することにより若手の増加を図る

5 対応策

上記4あげた問題を解決するためには、自分が考える解決策は大きく分けると2つ考えられる。

① 大工専門の育成機関の発足

大工は型枠、サッシ、鉄筋、コンクリ工、木造の大工など様々な種類が存在し多種多様に広がっている。そういった中で、共通している部分も存在している。それは木造である。木造は日本の建築の基本であるので、それを身に付けることにより、型枠で使う木材の加工などにも使えろと考えた。共通のスキルを伸ばすことで万能な大工を育成出来る。大工は小学生の憧れの職業に入っていて、なおかつ仕事のやりがいをもとめている傾向にある。そこに給与の安定や職の安定が加わることにより、大工の社会的評価も上がり、人数の増加に繋がる。更に確実なスキル向上により作業効率が上がることで休日の確保や安全面もあがるので、安心して働ける環境が作れる。入学することによって生徒は確実な職が手に入るように就職先を確保されている安心感を持ちしっかりと技術を習得することが可能になる。企業側のメリットとしては、どんな仕事でも任せることが出来る大工を自社で育成することなくすぐに手に入るの、その部分でのコストカットが出来、技術もしっかりしているので怪我などのリスクも減り安心して仕事を任せることが出来るのでお互いにWIN&WINの関係を気づけると考える。

② 大工に対するイメージ操作

大工にはまず3Kの大きな壁がある。これ無くすには、大きな功績ややりがいを民衆の目につくようにしなければいけない。そのためにはメディアの力を使っていくのが一番である。それによって子供の内から大工に対して憧れを持たせることができるのと考えろ。それは表2の調査から推察できる。それに日本人はテレビや周りからの流れに流されやすい傾向にあるので、印象操作は可能である。

6 検証：ケーススタディ

上記5の対応策についての検証を行う。

①大工の専門学校について

オンテックスが行っている取り組みとしてテクニカルスクールというのが、これはオンテックス専属の技術者になることを条件に正規社員として雇い入れ大工としての技能を泊まり込みで仕込んでいくものである。それについての詳しいことは今後調査していく。

②大工に対するイメージ操作

⁽⁴⁾これに関しては建築業界全体で協力してイメージアップ、教育機関と連携し入職促進を実施されている。具体的には3.3にも記載した通り職業イメージが悪いのが原因であるので、それを改善するために3Kのイメージ改善、建築業界のイメージアップ社会的地位の向上、教育機関との連携を高めるためにメディアを使い広く国民に対して戦略的な広報活動を行った。東日本大震災における建築企業の社会貢献の発信、世界に誇る最先端技術のPR（例としてスカイツリーなど）、現場見学会による建築業への理解増進活動である。

教育機関と連携した若年層の入職促進には、高等学校の教育機関や関連行政機関（文部科学省、厚生労働省）などと連携し、キャリア教育などに取り組んでいる。建築産業人材確保・育成推進協議会では、都道府県単位で専門工事業団体、専門高校、行政機関などによる連携体制の構築、行政による支援も作った。行政具体的な取り組みとしては、都道府県ごとの建設産業人材確保・育成推進協議会等の全国組織として平成5年8月に設置。人材の確保・定着に資する建設労働の社会的評価の向上等に重点を置いた活動を展開している。建設業界ガイドブック」の作成、配布、建設のしごと」ポータルサイトの開設である。これは、未来の建設業を担うべき若い人たちに対し、建設産業をよし一層身近に感じ、理解を深めてもらうために、職種ごとの仕事の内容、資格情報等を紹介されているものである。現場見学会マニュアル、建設業見学シートの配布し、小学生など若年者への建設業の紹介、現場見学会等に役立つ資料を配布している。

（財）建設業振興基金では、「建設業しんこう」の発行し、関係行政情報、建設現場、経営で役立つ実践的な講座など建設業界の諸問題や最新情報を紹介している。（社）日本建設業団体連合会では、建設スキルアップサポート制度を導入した。これは、工業高校等の在学中に技能・技術資格を取得し、（社）建設産業専門団体連合会の会員企業に入職した者に対し、資格取得費用の一部を助成するものである。出前講座等では、工業高校に講師を派遣して、建設産業の役割などを紹介する出前講座のほか、現場見学会、現場の美化活動、パンフレット作成・配布などのイメージアップを実施している。

出典）国土交通省「資料4」

URL: www.mlit.go.jp/common/000149008.pdf

以上から、①対策は今後深く研究するが、②の対応に関しては建築業界全体が行っているものをケーススタディすることにより検証がなされているとみなすことが出来る。

7 おわりに

本研究において建設工事従業者の人員不足するなか、大工専門学校の開設及びイメージアップの広報活動などから大工の人数を増加し、現状を打破し、建築業界全体の発展に役立てるために推進した。本研究における仮設検証は、さらに検証することにより、制度を上げたいと考えている。

本研究についてご指導を賜りました山本壽夫先生に心より感謝申し上げます。

注)

(1)津田敏(2014)「職業実践専門課程」の認定を受けた学校に関する研究」大学教育学部学会。

(2)鹿内啓子(2010)「学生における親の就職への態度および親との関係と職業意識との関連」北星学園大学文学部北星論集。

(3)豊嶋太郎、東樋口 護、橋本 清勇(1994)「造住宅生産の機械化と大工技能の変容」一般社団法人日本建築学会。

(4)国土交通省「資料4」

URL: www.mlit.go.jp/common/000149008.pdf